

# アサリの模様しらべ

## 1. ねらい

・アサリの殻の様々な模様を観察し、同じ種の中にも、それぞれ個性や違いがあること(生物多様性における種内の多様性※)を実感してもらう。

**参考** 『干潟の生きもの観察①②』とあわせて実施すると、生物多様性における種の多様性も一緒に実感してもらうことができる。

※『実践のための手引き 干潟の概要』を参照

## 2. 概要

○所要時間	35分
○時期	通年 干潮時
○場所	砂地の干潟
○対象	小学校低学年以上
○人数	基本的に問わないが、採集道具の数を考慮する。
○資材	スコップ、バケツ
○事前・事後学習	生物多様性について調べる。
○応用	干潟や浜に落ちている貝殻を代用する。食料品店で売られているアサリの模様や産地を調べる。
○安全管理	夏は帽子をかぶり、日焼け対策をし、飲み物を用意する。また冬はウィンドブレーカーを着る。移動時は、ばらばらにならずに一緒に行動する。干潟では泥が深い危険な箇所もあるので活動範囲と注意点をしっかり伝える。潮汐の時間を把握しておく。

7

## アサリの模様しらべ

アサリの模様はひとつひとつ違うよ。  
どんな模様のアサリがあるかな。

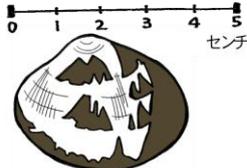


①干潟の砂を掘って、アサリを探そう。

【アサリの特徴】

①殻の大きさは3～4センチだよ。

②殻には、細かい縦・横のすじがあり表面がザラザラしているよ。





②アサリの殻の模様を見比べ、似たもの同士でわけてみよう。





### 3. 実施の手順

※『干潟の生きもの観察①②』の後に、この活動を行う場合は、展開部からの開始となる。

#### 導入(5分)

- ・アサリの殻の模様はいろいろあり、1個ずつ異なることを伝え、どのような模様があるのか調べてみよう、と参加者に投げかける。
- ・たいけんカードを使って、アサリの特徴を説明する。
- ・『干潟の生きもの追跡』のたいけんカードで二枚貝の穴の特徴を説明する。
- ・危険生物や危険箇所等、注意事項を伝える。
- ・集合時間と集合場所を伝え、アサリを採集してもらおう。人が多いときは班で活動する。

#### 展開(20分)

- ・アサリの採集状況を見て、集合を呼びかける。
- ・アサリを、似ている模様同士でまとめ、大まかにグループ分けしてもらおう。

#### まとめ(10分)

- ・どのような模様のアサリがあったか、どのようなタイプの模様が多かったのか、あるいは少なかったのか、参加者に発表してもらい、全体で共有する。
- ・同じアサリという種の中にも、それぞれ個性や違いがあることについて気づきを分かち合う。

### 4. 指導のポイント

- ・適切な活動日と活動時間を選び、下見をしてアサリが採れる場所を把握しておく  
潮汐時間やアサリの生息状況によって採集できない場合があるので、活動日を選んで下見を行う。活動日は、潮がよく引く大潮(新月と満月の日)のころを選び、干潮時間の2時間ほど前に干潟に入る。また、活動日の潮汐に近い日(活動日の約2週間前等)に下見を行い、アサリがよく採れる場所を把握しておく。
- ・採集は適切な場所で行う  
漁業権が設定されているところで、無許可で採集をすると密猟になるので注意する。漁業権が設定されていないところでは自由に採ることができるが、マナーを守って活動する。
- ・生物多様性の3つのレベルを知る  
以下の3つのレベルの生物多様性によって、生きもの同士はつながりあい、それぞれ生きていくことができる。
  - ①種の多様性・・・生きものの種類が多くいること。
  - ②種内(遺伝子)の多様性・・・ある種の生きものの中でも遺伝子が多様で、個体ごとに色や形など性質の違いや個性があること(アサリの模様が一つ一つ異なることはその例)。
  - ③生態系の多様性・・・様々な環境とそこにすむ生物によって織りなす生態系が多様であること。干潟の場合は、上流の森、川・ヨシ原・浅瀬と密接なつながりがある。

※干潟の生物多様性の重要性については、『実践のための手引き 干潟の概要』を参照。